

## 上皮性卵巣腫瘍のエストロゲン産生能機序解明と新規治療法の開発を目的とした研究 のお知らせ

福井大学医学部附属病院産科婦人科では、倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、対象に該当すると思われる方で、検体の使用を拒否される場合は下記問い合わせ先へご連絡下さい。

平成27年10月 福井大学医学部附属病院産科婦人科

### 【研究課題名】上皮性卵巣腫瘍のエストロゲン産生能機序解明と新規治療法の開発を目的とした研究

【研究期間】承認日から平成32年3月31日まで

【研究の意義・目的】閉経後、上皮性卵巣腫瘍の中に女性ホルモンであるエストロゲンの上昇を示すものがあります。しかし、エストロゲン産生に関する詳しいメカニズムはわかっていません。今回の研究は、卵巣腫瘍におけるエストロゲン産生メカニズムを解明することと、それらの知見に基づき、卵巣腫瘍発生・発育のメカニズムを解明し、新しい治療法を開発することが目的です。

【研究方法】摘出した卵巣腫瘍標本において、チトクローム P450 アロマトラーゼおよび SF-1 などの、女性ホルモン発現に関与すると考えられている遺伝子の発現を免疫染色および real time PCR などを用いて検討します。さらに術前後の女性ホルモン値を測定し、その変化を検討します。

本研究では、当科で術前に「採取資料（試料）の検査・研究使用について」に同意していただいた方の血液・組織検体の一部を使用させていただきます。手術検体は連結可能匿名化（必要な場合に人を識別できるよう、その人と新たに付された符号又は番号の対応表を残す方法による匿名化）した状態で使用させていただきます。ただし、現時点では研究段階のため、対象となった患者様へ個別に研究結果の報告をいたしません。また研究の結果に対して特許権等の知的財産権が生じた場合、その権利や経済的利益は国、共同研究施設、および研究遂行者等に帰属します。本研究の結果は後日学会発表や学術誌などで公表する場合がありますが、その場合も個人のプライバシーの保護を厳重に守ります。

【研究期間後の試料等の取り扱い】研究に関する試料等は研究期間終了後も平成37年3月31日まで保管させていただきます。将来、試料等を新たな研究に用いる場合には改めて計画書を提出し、倫理審査委員会の承認を受けます。

**【研究組織】**

研究責任者：産科婦人科 吉田好雄教授

研究分担者：産科婦人科 知野陽子助教、山本真助教

**【本研究に関する問合せ先】** 本研究に関してご質問がある場合は下記までご連絡ください。

○問合せの窓口

福井大学医学部 産科婦人科医局 担当 吉田好雄

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

TEL:0776-61-8392 FAX:0776-61-8117 e-mail:obgyn@med.u-fukui.ac.jp

○苦情の窓口

福井大学 総務部 松岡キャンパス総務室 学術支援係

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

電話：0776-61-8614 Fax：0776-61-8153